

-
- ・ 1921年（大正10年）5月17日
東宮殿下（昭和天皇）が渡英され、ロンドンにおいて、B－P卿と謁見される。そして、エジンバラで1,500名のスカウトを視察され、このような運動が日本にもあれば……と述べられた。随行員であった二荒芳徳（後の日本連盟総コミッショナー）、竹下勇（後の少年団日本連盟第三代総長）、小山武（後の大日本海洋少年団理事長）らは各地の少年団を合わせた組織作りを始めた。（このことが少年団日本連盟結成の契機になった）
 - ・ 1922年（大正11年）「ローバーリング・トゥ・サクセス」出版される。
静岡市において少年団日本連盟が結成された（4月13日）。総長は後藤新平、理事長二荒芳徳、副理事長三島通陽
 - ・ 1923年（大正12年）神戸市須磨に「須磨向上会ウルフカブ」が誕生。
※古田誠一郎による日本のカブスカウトの誕生であった。
 - ・ 1924年（大正13年）機関誌「少年団研究」創刊。
「花は薫るよ」を連盟歌として採用。
少年団日本連盟は国際事務局に加盟登録をした。
佐野常羽が日本人として初めてギルウェル訓練所に入所する。
 - ・ 1925年（大正14年）「少年団教範」刊行。「宣誓」と「おきて」制定。
日本において初めての指導者訓練所（指導者実修所）が山中湖畔で開設された。
所長は佐野常羽で受講者76名。河口隊隊長は福島四郎、山中隊隊長は細野浩三であった。（指導者訓練の始まり）
 - ・ 1926年（昭和元年）「青年健児教範」刊行。
 - ・ 1927年（昭和2年）「幼年健児教範」刊行。
指導者訓練所を指導者実修所と改称し、第1回幼年部中央実修所が山中湖畔で開設された。
※軍部が国民教育に干渉を始める。軍部はボーイスカウト、ウルフカブは外国かぶれしていると批判。
 - ・ 1932年（昭和7年）「五指礼」問題が起こる。
※軍部は「三指」の敬礼でなく「五指」で敬礼するようにと圧力をかけた。
 - ・ 1935年（昭和10年）少年団日本連盟は大日本少年団連盟と改称された。
※「五指礼」を採用せざるを得なくなった。
 - ・ 1938年（昭和13年）海洋部が独立し、大日本海洋少年団連盟を結成。
 - ・ 1941年（昭和16年）創始者B－Pがケニアで永眠。1月8日
少年団は統合されて「大日本青少年団」となる。機関誌「少年団研究」廃刊。
 - ・ 1946年（昭和21年）ボーイスカウト運動の再建が承認される。
 - ・ 1946年（昭和21年）各地で指導者講習会が開かれる。
 - ・ 1947年（昭和22年）ボーイスカウト日本連盟として再発足する。
「ちかい」、「おきて」、「スカウト章」を制定。
東京中央放送局から「ボーイスカウト物語」を全国放送。その後、スカウト章やボーイスカウトをデザインした民間商品が出現する。
 - ・ 1948年（昭和23年）指導者実修所が開設される。
 - ・ 1949年（昭和24年）全日本ボーイスカウト大会開催（皇居前広場）。
-